

株式会社マツオカコーポレーション

個人投資家向けIRセミナー

証券コード3611

2026年9月26日



本日本お伝えしたいこと

1

マツオカは
何をしている会社か

「あらゆる服づくりの舞台裏に
私たちがいる」
(VISION)

2

なぜアパレルメーカーから
選ばれるのか

工場育成という競争優位性
「選ばれる工場」とは

3

成長の成果を
どう株主へ届けるか

成長投資と株主還元

会社概要

会社名称	株式会社マツオカコーポレーション
代表者	代表取締役社長執行役員 松岡 典之
本社	広島県 福山市
設立年	1956年
事業内容	アパレルOEM 縫製事業/ラミネーションフィルム事業
従業員数	連結 22,106人 (2026年6月末現在)
生産拠点	中国、ミャンマー、バングラデシュ、 ベトナム、インドネシア / 14工場
上場市場	東証スタンダード市場 (証券コード 3611)



沿革

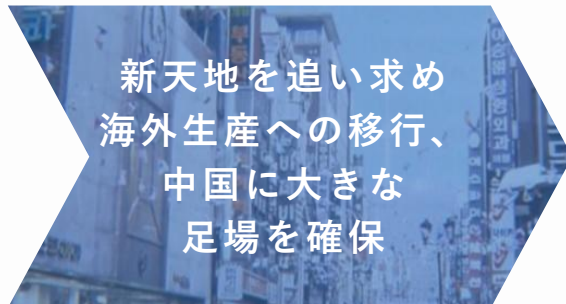
1956 ~ 設立



呉服屋として創業、
“つくり手”である
縫製業へ

- 広島県で呉服屋として創業
- 1960年代からアパレルOEMメーカーとして各種 製造の仕事を拡大
- 1980年に100名の工員を抱える工場に

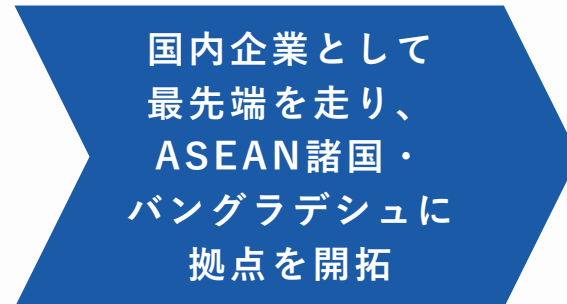
1982 ~ 基盤構築期



新天地を追い求め
海外生産への移行、
中国に大きな
足場を確保

- 1982年に韓国で委託生産を開始
- 1990年に浙江省平湖市の企業に出資、合併での海外自社工場が操業開始
- 1991年に生産100万枚を達成
- 1998年に日本国内の工場を完全撤退

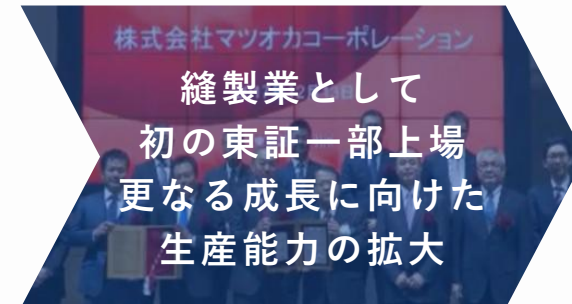
2003 ~ 開拓・拡大期



国内企業として
最先端を走り、
ASEAN諸国・
 Bangladeshに
拠点を開拓

- 2004年にミャンマーの日系工場を譲受
- 2007年に日系縫製メーカーとして初めて Bangladesh に工場を設立
- 2015年にベトナムに工場を設立

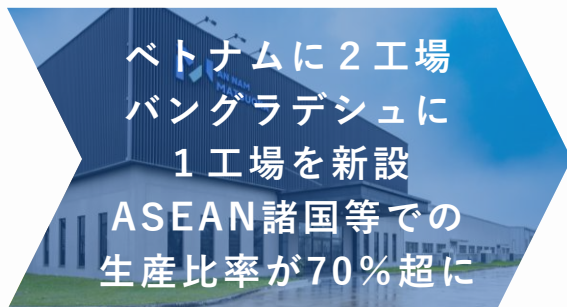
2017 ~ 更なる成長へ



株式会社マツオカコーポレーション
縫製業として
初の東証一部上場
更なる成長に向けた
生産能力の拡大

- 2017年に国内縫製メーカーとして初めて東証一部に上場
- 上場により調達した資金を、生産能力拡大と品質向上のために投資
- 2018年にインドネシアに工場を設立、5カ国体制へ

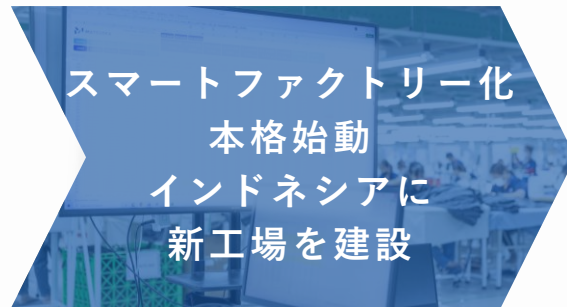
2021 ~ ビジョン2025



ベトナムに2工場
 Bangladesh に
1工場を新設
 ASEAN諸国等での
生産比率が70%超に

- 100億円規模の工場投資を実施
- 前倒しで売上高700億円を達成

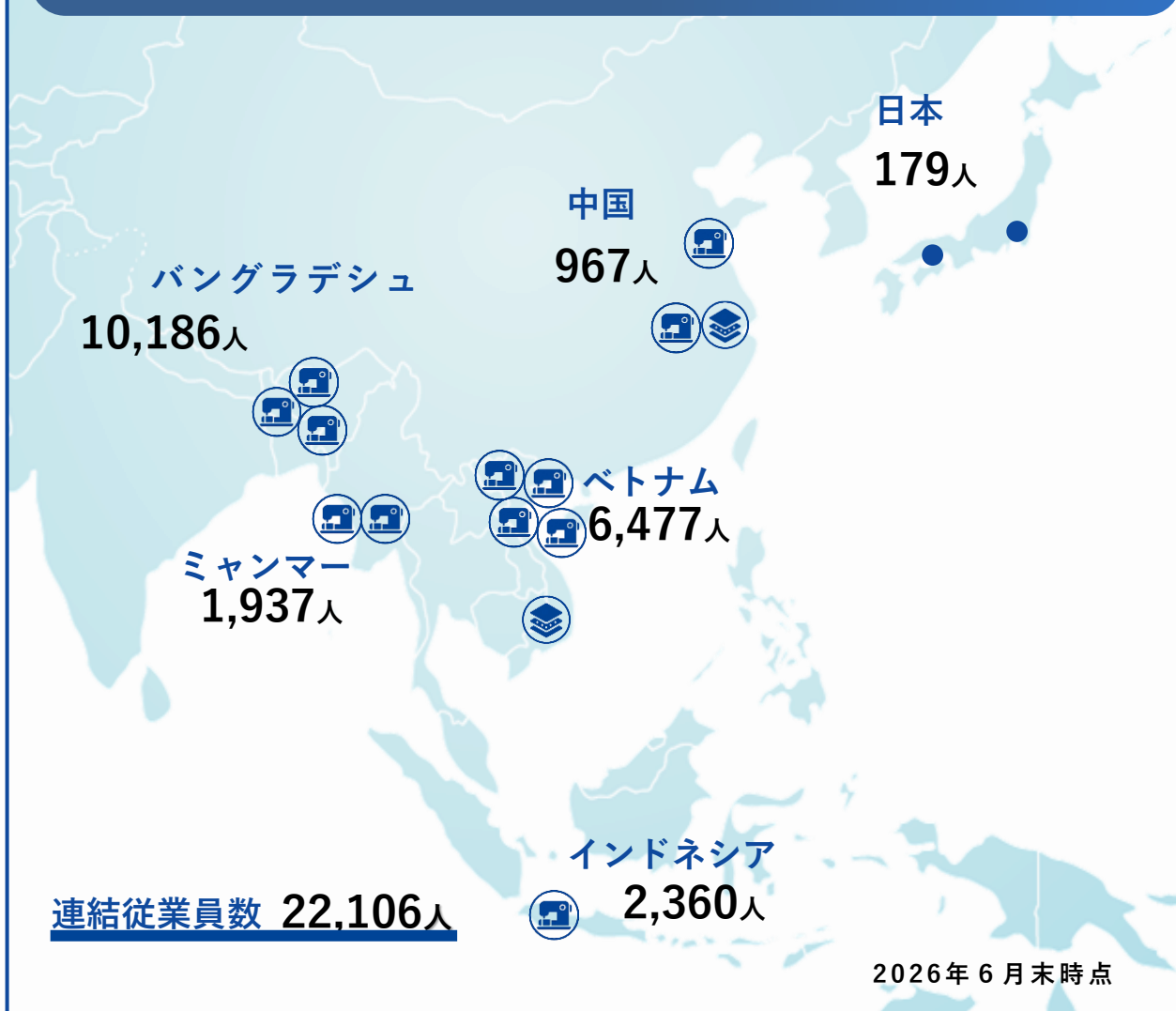
2026 ~ BEYOND2028



スマートファクトリー化
本格始動
インドネシアに
新工場を建設

事業概要

マツオカグループ 5カ国14工場の工場群



縫製事業

カジュアルウェア、ワーキングウェア、
インナーウェア・カットソーなどを生
産。



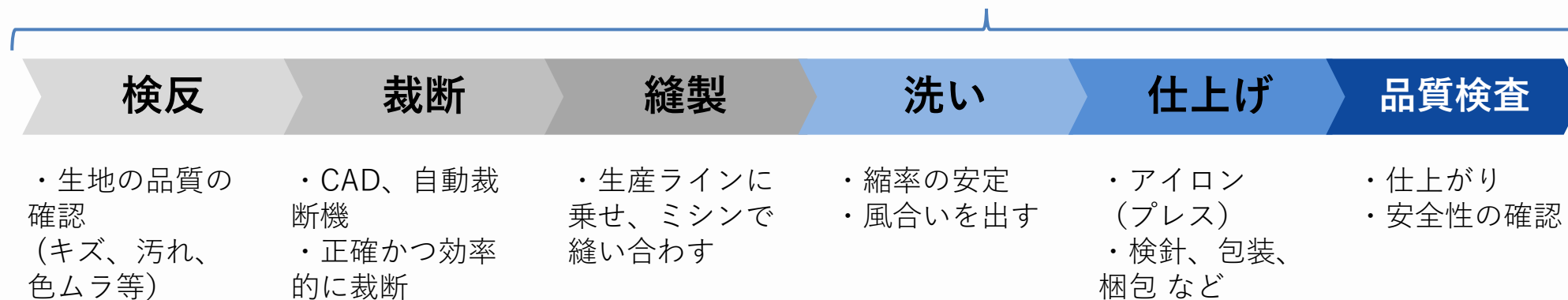
ラミネーション フィルム事業

機能性フィルムを生地に張り合わせ、
透湿防水機能を持つ加工生地を製
造・販売。主にアウトドアウェア等
で使用。

国内外のアパレルメーカー

世界の消費者

縫製事業 生産工程



競争優位性は、グローバル生産ネットワークを構築・進化させる力



現在の5カ国にわたる生産体制は、工場育成を積み重ねた結果として形成された競争優位性

「選ばれる工場」になる

なぜ今「選ばれる工場」が必要なのか

市場

世界の Apparel 市場は成長※

人口増加を背景に
服をつくる需要は今後も拡大

※Fortune Business Insights（2025年10月6日発表）より

生産環境

VUCAの常態化（予測困難）

地政学リスク
人件費上昇、人材確保の難しさ
価値価格バランス志向
ブランド・サステナビリティ重視

社会的要請

責任ある生産が前提に

納期
供給力
透明性
サステナビリティ
監査

安心して服づくりを任せるために、工場に求める条件が高度化・複合化

要望の変化に対応できる工場だけが、継続して選ばれる

2027年3月期 第1四半期 | 増収、将来成長に向けた先行投資局面

売上高 189.5億円

前年同期比
+11.8%

為替差損益
調整後営業
利益 8.5億円

前年同期比
△21.7%

経常利益 11.1億円

前年同期比
+45.5%

親会社株主に
帰属する
四半期純利益 5.4億円

前年同期比
+63.1%

※ 為替差損益調整後営業利益は、営業利益に営業取引から発生した為替差損益を加減算したものであり、当社本業における実力値を判断するために算出した当社独自の指標です。

2027年 3 月期 連結業績見通し | 修正なし

- 縫製事業を中心に事業拡大を見込む。経常利益は為替影響によるドル資産等の換算替えによる為替差損の発生を想定。

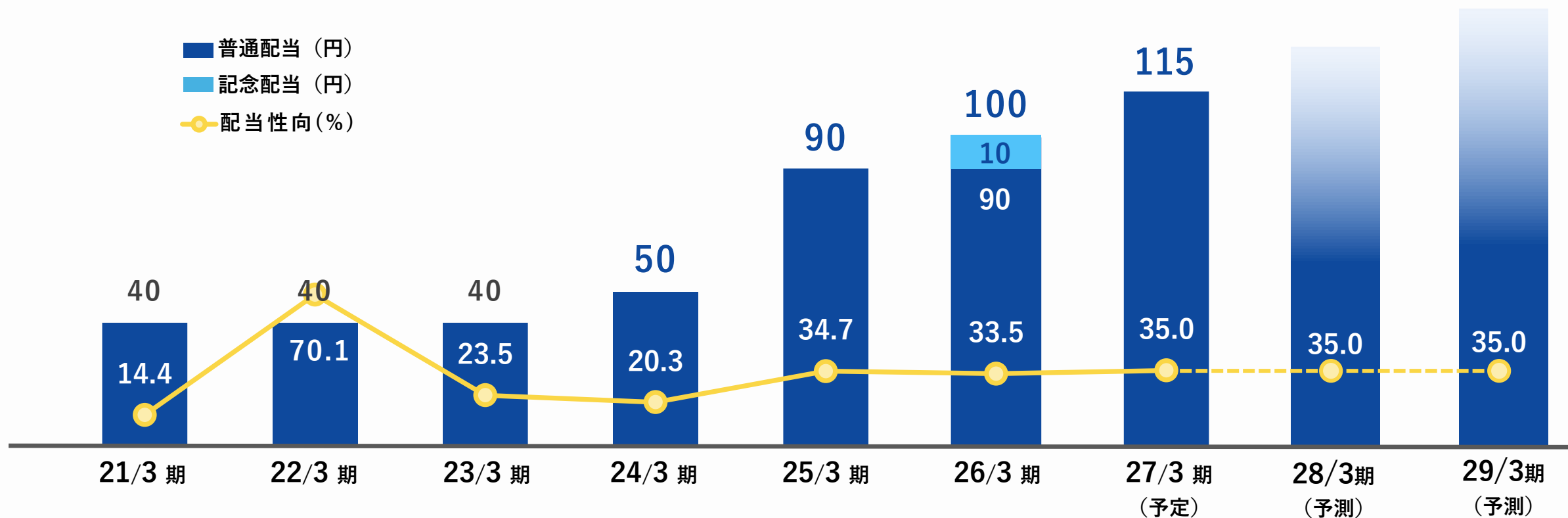
		2026年 3 月期 実績		2027年 3 月期 計画	増減	増減率	2027年 3 月期 第 1 四半期	進捗率
売	上	高	74,251	80,000	+5,748	+7.7%	18,958	23.7%
営	業	利	2,174	3,400	+1,225	+56.3%	148	4.4%
為替差損益調整後営業利益			4,813	5,300	+486	+10.1%	850	16.0%
経	常	利	5,391	4,900	▲491	▲9.1%	1,113	22.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,117	3,400	+282	+9.1%	549	16.2%
販売枚数（縫製事業）			6,350万枚	7,000万枚	+ 649万枚	+10.2%	1,418万枚	20.3%
販売ヤード数（ラミネーション フィルム事業）			1,364万ヤード	1,500万ヤード	+ 135万ヤード	+9.9%	374万ヤード	25.0%
為替レート			2026年 3 月期		2027年 3 月期			
			(25／12) 子会社	(26／3) 当社	通期想定レート			
<円／USD>	期中平均	149.6円	150.7円	151.3円				
	期末	156.6円	159.9円	152.0円				
<円／元>	期中平均	20.8円	—	21.2円				
	期末	22.4円	—	—				

© 2026 MATSUSHITA CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED.

株主還元

- 30期連続配当実施中
- 2027年3月期より配当性向 35%を目安に株主還元を実施予定、1株当たり115円の配当を予定
- 財政状態や株価の状況に合わせて、機動的に還元強化を検討

中期経営計画期間



中期経営計画の基本方針

「選ばれる工場」への進化
ROE 10%を目指す

2026年3月期
売上高：742億円
経常利益：53億円
純利益：34億円
ROE：8.0%

2029年3月期
売上高：900億円
経常利益：60億円
純利益：40億円
ROE：9.0%

前中期経営計画
ビジョン2025

中期経営計画
BEYOND2028

基本方針

工場稼働の最大化・生産の拡大

拡大を支える基盤への重点投資

「資本コストや株価を意識した経営」への転換

グローバル・ガバナンス強化

BEYOND2028の進捗



インドネシア新工場

生産キャパシティの拡大

目標・方向性

**300万枚
増産**

インドネシアの生産枚数
(2026年3月期比)

進捗状況

- 用地整備が進行中
- 今期中の着工を予定
- 2028年1月 テスト生産開始を目指す



スマートファクトリー化

生産管理・データ活用の高度化

目標・方向性

**グローバルサプライチェーンを
統制する管理体制へ**

パイロット工場2工場を導入を推進

進捗状況

- 機械設備の設置が完了
- 試験運用を開始



連結従業員数

生産能力を支える人的資本の拡充

目標・方向性

24,000人 (2029年3月末)



進捗状況

- 2026年6月末 22,106人
- バングラデシュで1万人を突破

インドネシア新工場（2026年8月時点） | 用地整備が進行中



（すべて当社撮影）

BEYOND2028の進捗



インドネシア新工場

生産キャパシティの拡大

目標・方向性

300万枚増産

インドネシアの生産枚数
(2026年3月期比)

進捗状況

- 用地整備が進行中
- 今期中の着工を予定
- 2028年1月 テスト生産開始を目指す



スマートファクトリー化

生産管理・データ活用的高度化

目標・方向性

**グローバルサプライチェーン
を統制する管理体制へ**

パイロット工場2工場を導入を推進

進捗状況

- 機械設備の設置が完了
- 試験運用を開始



連結従業員数

生産能力を支える人的資本の拡充

目標・方向性

24,000人 (2029年3月末)



進捗状況

- 2026年6月末 22,106人
- バングラデシュで1万人を突破

スマートファクトリー化でマツオカがどうなるのか | 試験運用中

現在

工場ごとの個別管理

生産・品質・在庫情報が工場ごとに存在
状況把握や集計に時間を要する
問題発生後の確認・対応が中心
判断が現場の経験に依存

スマートファクトリー化

MES・ERPによる共通基盤



将来

グループ一体での工場運営

世界各地の工場状況を横断的に把握
問題や変化に事前に備える
工場間で生産・納期を迅速に調整
共通基準に基づき判断・改善

< 目指す効果 >

1

納期の短縮

進捗・ボトルネックを
早期に把握

2

安定供給力

工場横断で状況を把握し
変化に迅速対応

3

品質の再現性

国・工場をまたいで
共通基準を展開

4

透明性・説明責任

生産情報を蓄積し、
情報要求に対応

BEYOND2028の進捗



インドネシア新工場 生産キャパシティの拡大

目標・方向性

300万枚増産 インドネシアの生産枚数
(2026年3月期比)

進捗状況

- 用地整備が進行中
- 今期中の着工を予定
- 2028年1月 テスト生産開始を目指す



スマートファクトリー化 生産管理・データ活用的高度化

目標・方向性

**グローバルサプライチェーンを
統制する管理体制へ**
パイロット工場 2 工場を導入を推進

進捗状況

- 機械設備の設置が完了
- 試験運用を開始



連結従業員数 生産能力を支える人的資本の拡充

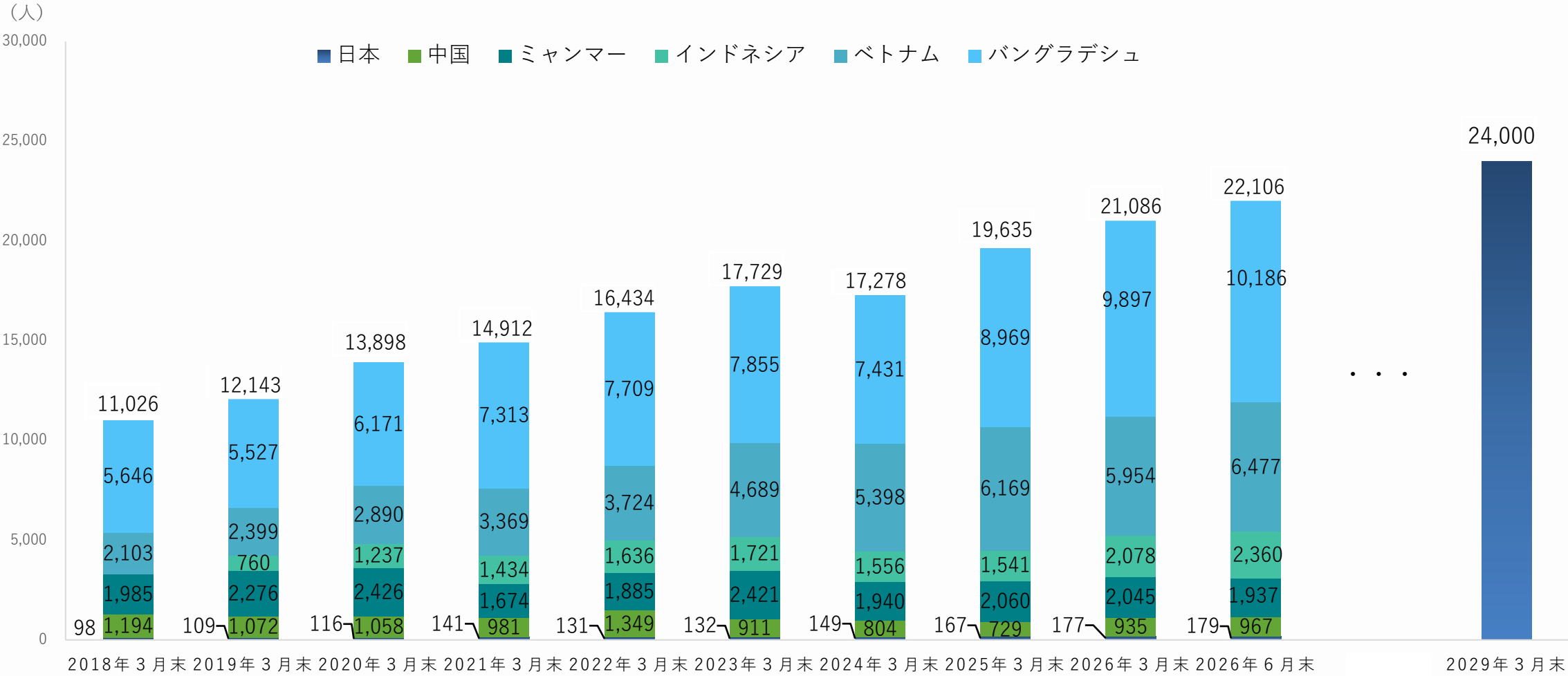
目標・方向性

24,000人 (2029年3月末)

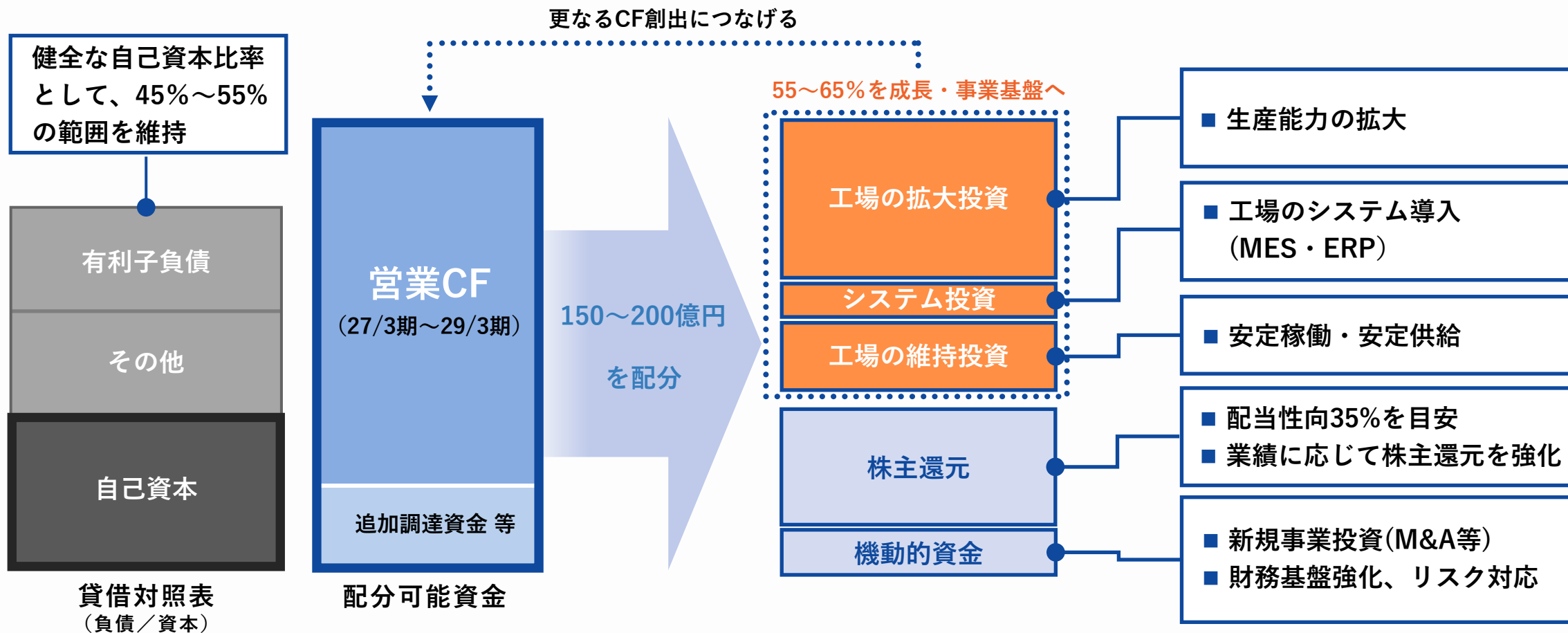
進捗状況

- 2026年6月末 22,106人
- バングラデシュで1万人を突破

連結従業員数推移



キャピタルアロケーション方針（27/3期～29/3期累計）



資本構成を健全に維持しつつ、企業価値の最大化に向けて、成長投資と株主還元の両方を強化

本日お伝えしたこと

1

マツオカは
何をしている会社か

世界の服づくりを支える
アパレルOEMメーカー

2

なぜアパレルメーカーから
選ばれるのか

競争優位性は
工場を育てる力

3

成長の成果を
どう株主へ届けるか

「選ばれる工場」への
進化を通じて
ROE10%を目指す

本資料の取り扱いについて

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

本資料における表示方法について
数値：単位未満を切り捨て
比率：1円単位の金額で計算後、単位未満四捨五入
会計期間：連結・当社、国内および海外子会社の会計期間は次のとおり

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通 期
連結・当社・ ミャンマー子会社	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～翌年 3月
その他の海外子会社	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～12月

本資料に関するお問合せ先

株式会社マツオカコーポレーション
経営企画部 広報IR課



084-973-5201 <https://www.matuoka.co.jp/>

info_ir@matuoka.co.jp

公式SNSアカウント



@matsuokacorp_official



@matsuokacorp_ir

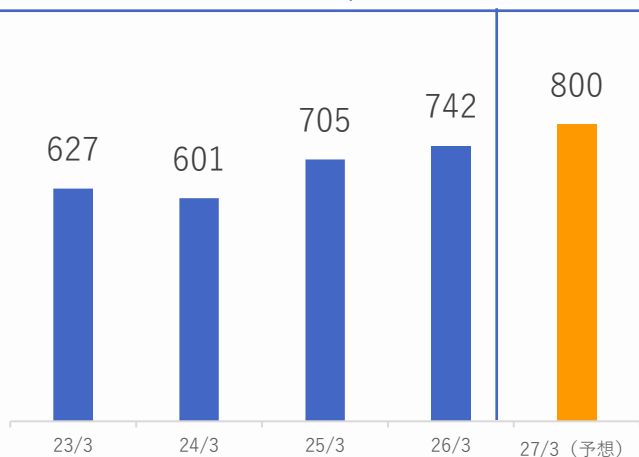
INDEX

Appendix

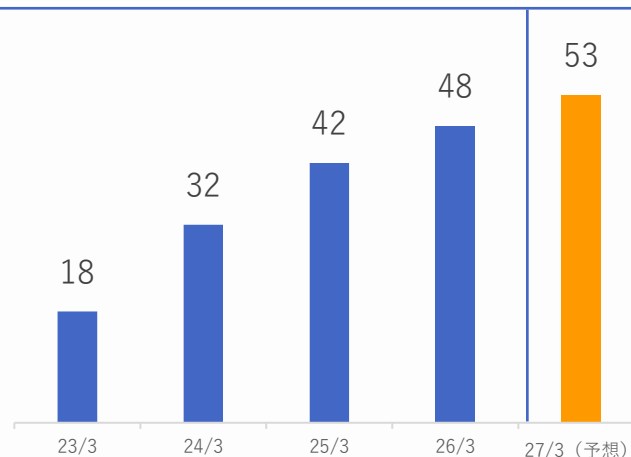


連結業績推移（単位：億円）

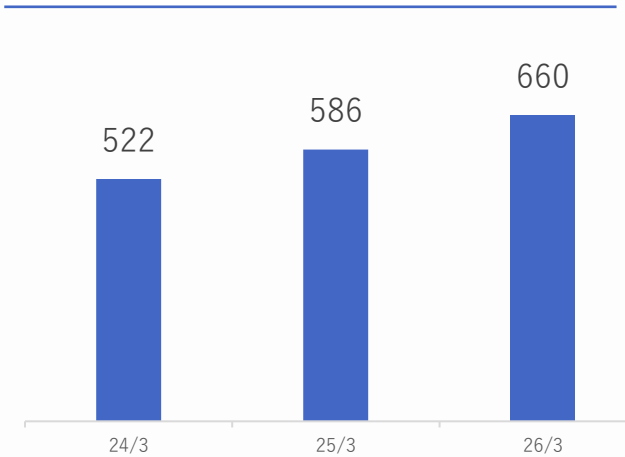
売上高推移



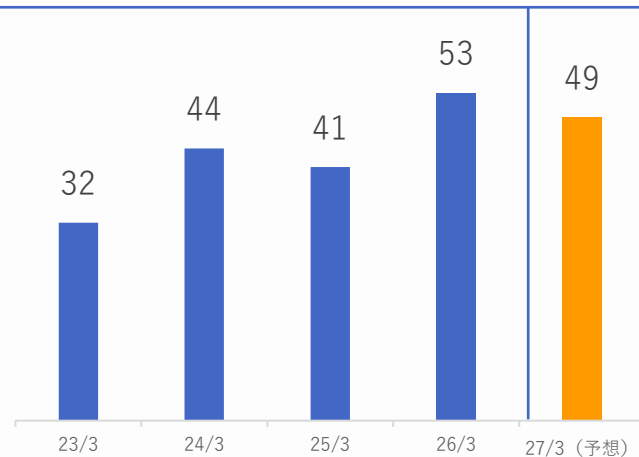
為替差損益調整後営業利益推移



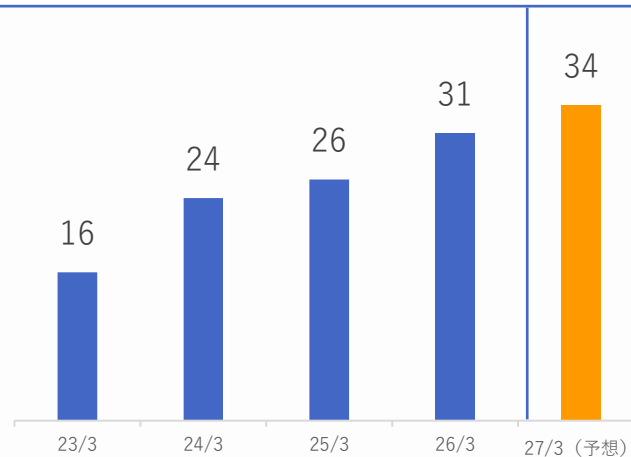
縫製事業 売上高推移



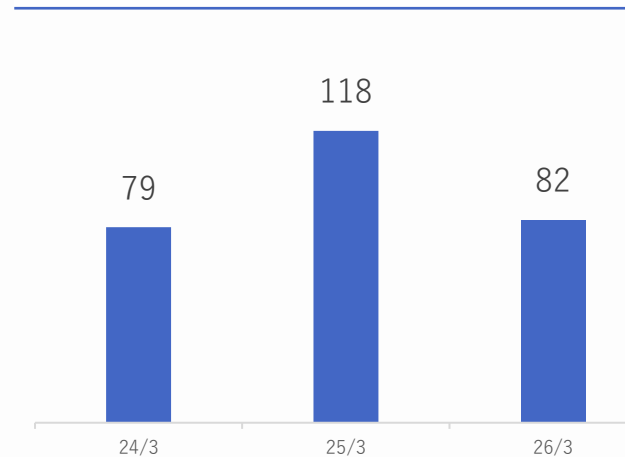
経常利益推移



親会社株主に帰属する当期純利益推移



ラミネーションフィルム事業 売上高推移



-
- The diagram illustrates the consolidated financial statement preparation method. It shows the flow of currency between the following entities:
- 顧客 (Customer):** Represented by a pink box on the left.
 - 当社 (本社) (Our Company / Head Office):** Represented by a light blue box in the center.
 - 当社子会社 (JV含む) (Our Subsidiaries (including JV)):** Represented by a light blue box on the right, listing China, Vietnam, Bangladesh, Myanmar, and Indonesia.
 - 国内仕入先・従業員 (Domestic Suppliers and Employees):** Represented by a light blue box at the bottom.
 - 海外仕入先 (Overseas Suppliers):** Represented by a light blue box on the top right.
 - 海外従業員 (Overseas Employees):** Represented by a light blue box on the bottom right.
- The flow of currency is indicated by arrows:
- 顧客 (Customer) to 当社 (本社):** USD and JPY.
 - 顧客 (Customer) to 当社子会社 (JV含む):** USD.
 - 当社 (本社) to 当社子会社 (JV含む):** USD.
 - 当社 (本社) to 国内仕入先・従業員:** JPY.
 - 当社子会社 (JV含む) to 海外仕入先:** CNY, VND, BDT, MMK, IDR.
 - 当社子会社 (JV含む) to 海外従業員:** CNY, VND, BDT, MMK, IDR.
- A dashed blue box labeled **連結** (Consolidated) encloses the 当社 (本社) and 当社子会社 (JV含む). A solid blue box labeled **単体** (Individual) encloses the 当社 (本社).

© 2026 MATSUOKA CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED.

為替の影響及び「為替差損益調整後営業利益」について②

■ 当社グループの収支構造では、為替変動によって、海外子会社損益計算書の製造原価及び販管費の円換算額が変動する。一方で取引先との個別契約等による為替変動リスクヘッジの効果は、日常的な営業取引決済等から発生する為替差損益として、損益計算書において営業外損益に計上される。これらの為替差損益は当社の営業取引（本業）から生じると考え、営業取引から発生した為替差損益を調整した事業損益を算定し「為替差損益調整後営業利益」として開示している。

■ 計算式：為替差損益調整後営業利益 = 営業利益 + 営業取引から発生した為替差損益

注：為替差損益の分類方法は以下の通り。

営業取引から発生した為替差損益：売掛金及び買掛金から生じる決済差額及び換算差額、並びに為替レート差に起因する連結相殺差額

財務取引から発生した為替差損益：現預金、貸付金及び借入金から生じる決済差額及び換算差額

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
売上高	51,056	62,778	60,176	70,579	74,251
営業利益	181	67	792	433	2,174
為替差損益	550	2,848	3,404	3,638	3,154
うち営業取引から発生したもの	382	1,823	2,454	3,799	2,638
うち財務取引から発生したもの	168	1,024	949	▲160	516
為替差損益調整後営業利益	563	1,890	3,247	4,233	4,813
経常利益	1,037	3,202	4,493	4,199	5,391

財務情報

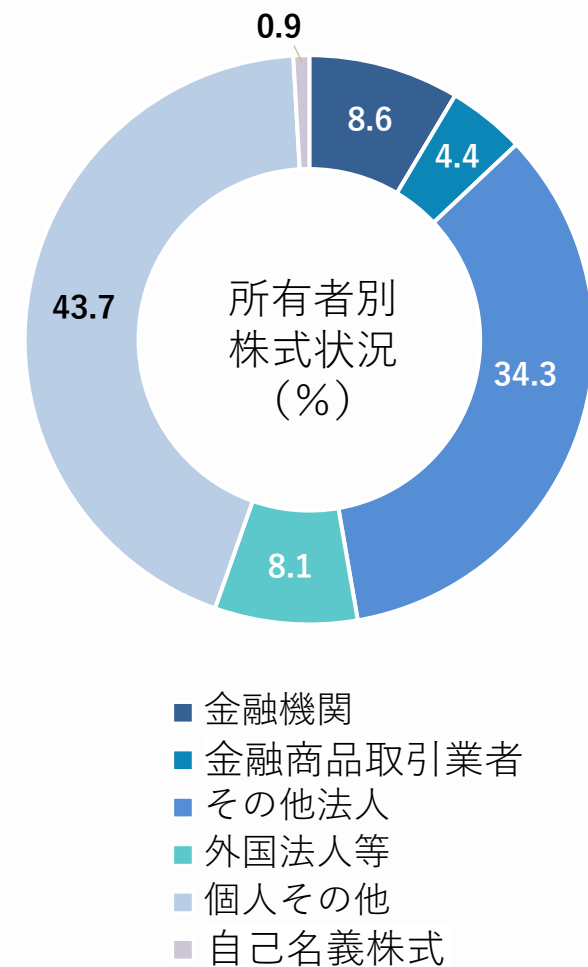
(単位：百万円)

項目	通期実績				通期予想
	2023年 3 月期	2024年 3 月期	2025年 3 月期	2026年 3 月期	2027年 3 月期
売上高	62,778	60,176	70,579	74,251	80,000
売上総利益	5,791	6,478	6,588	8,756	-
営業利益	67	792	433	2,174	3,400
為替差損益調整後営業利益	1,890	3,247	4,233	4,813	5,300
経常利益	3,202	4,493	4,199	5,391	4,900
当期純利益	1,584	2,228	2,544	3,405	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,676	2,457	2,600	3,117	3,400
現金預金	15,064	17,996	20,151	21,737	-
有形固定資産	18,494	19,457	20,861	21,626	-
借入金	13,017	12,848	14,993	15,061	-
総資産	59,295	65,697	72,453	78,266	-
純資産	32,305	36,061	40,529	43,689	-

株主メモ

株式情報 (2026年3月31日現在)

上場取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
証券コード	3611 (繊維製品)
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定基準日	期末配当 3月31日 (中間配当 9月30日)
定時株主総会開催日	毎年6月
単元株式数	100株
発行済株式数	10,593,600株
株主数	8,082名
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社





MATSUOKA

できる、を創る。